

# 日中青年の自己意識，対人態度，親子関係 に関する比較研究

高木秀明\*・黄毓芳\*\*

A Comparative Study of the Self-Consciousness,  
Interpersonal Attitudes, and Parent-Child Relationships  
between Japanese and Chinese Adolescents

Hideaki TAKAGI and Yu-Fang HUANG

## Abstract

The purpose of this study is to investigate the self-esteem, self-acceptance, interpersonal attitudes, and parent-child relationships in Japanese and Chinese adolescents, and to clarify the relationships among their self-esteem, self-acceptance, interpersonal attitudes, and parent-child relationships. The subjects were 230 Japanese and 180 Chinese senior high school students, and 384 Japanese and 207 Chinese college students.

The following results were obtained:

- (1) Chinese adolescents had higher self-esteem and self-acceptance than Japanese adolescents. Especially, the differences in the acceptance of negative self were very large between them.
- (2) Chinese adolescents had more regard for interpersonal attitude of "trust and love", and less regard for "conformity and dependence" than Japanese adolescents.
- (3) Chinese adolescents had more gratitude and affection for their parents than Japanese adolescents. Japanese adolescents became more psychologically independent of their parents than Chinese adolescents.
- (4) As regarding the relationships among self-esteem, self-acceptance, interpersonal attitudes, and parent-child relationships, there were some similarities and differences between Japanese and Chinese adolescents.

---

\*心理学教室 (Dept. of Psychology)

\*\* 本学教育学部外国人客員研究員 (Visiting Research Fellow in Faculty of Education)

## 目 的

筆者はこれまで日本と中国の青年について、その心理的特徴を調べ、比較してきた。その結果、同一性地位に関しては、日本の高校、大学生には中国の高校、大学生よりも「同一性拡散地位」のものが多く、一方、中国の高校、大学生には日本の高校、大学生よりも「権威受容地位」のものが多く（高木・張, 1990 a）、また、日本の青年は中国の青年よりも不安水準が高いのに対して（高木・張, 1993）、中国の青年は日本の青年よりも「自立・自信」感が強いこと（張・高木, 1994）、さらに、中国の青年の親子関係は日本の青年よりも密接であり（高木・張, 1990 b）、友人関係に関しても中国の青年の方が日本の青年よりもその内容が全般的にすぐれていること（張・高木, 1991）が明らかにされた。本研究では、日中の青年の心理的特徴をさらに一層明らかにするために、その自尊感情、自己受容、対人態度、親子関係を比較することを目的とする。

## 方 法

### 1. 調査対象

- 日本 高校：神奈川県公立高校2校の1年生230名（男子104名、女子126名）  
大学：神奈川県国立大学1校の1～4年生384名（男子243名、女子141名）  
中国 高校：中国の福州の高校2校の1～2年生180名（男子90名、女子90名）  
大学：中国の福建省の大学2校の1～3年生207名（男子111名、女子96名）

### 2. 調査期間および実施方法

中国は1994年2月～3月、日本は1994年4月に集団で調査を実施した。

### 3. 調査項目

#### (1) 自尊感情

Rosenberg (1965) が作成した自尊感情測定項目（1尺度、10項目）を用いた。評定は、各項目ごとに「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「すこしあてはまる」「非常にあてはまる」の4段階評定で行われ、それぞれの回答に対して1～4点の項目得点が与えられた。尺度得点は反転項目の得点を反転させた上で、10項目の得点を合計し、それらを10で割って算出した。日本語と中国語の具体的項目は高木・張（1990 a）に示されている。

#### (2) 自己受容

高木・徳永（1989）が作成した自己受容測定項目（4尺度、16項目）を用いた。

尺度Ⅰ 「肯定的な自己認知に対する自己受容」尺度（4項目）

尺度Ⅱ 「否定的な自己認知に対する自己受容」尺度（4項目）

尺度Ⅲ 「肯定的な自己認知に対する自己拒否」尺度（4項目）

尺度Ⅳ 「否定的な自己認知に対する自己拒否」尺度（4項目）

評定は、各項目ごとに「あてはまらない」「わずかにあてはまる」「少しあてはまる」「かなりあてはまる」「とてもよくあてはまる」の5段階評定で行われ、それぞれの回答に対して1～5点の項目得点が与えられた。各尺度得点は各尺度を構成する4項目の得点を

合計し, それらを4で割って算出した。日本語と中国語の具体的項目は高木・張(1990a)に示されている。

### (3) 対人態度

加藤・高木(1980)が作成した対人態度測定項目(4尺度, 20項目)を用いた。

尺度I 「信頼・愛情」尺度(5項目)

尺度II 「対立」尺度(5項目)

尺度III 「同調・依存」尺度(5項目)

尺度IV 「孤独」尺度(5項目)

評定は, 各項目ごとに「全く自分にはあてはまらない」「あまり自分にはあてはまらない」「どちらともいえない」「大体自分にあてはまる」「全く自分にあてはまる」の5段階評定で行われ, それぞれの回答に対して1~5点の項目得点が与えられた。各尺度得点は各尺度を構成する5項目の得点を合計し, それらを5で割って算出した。日本語と中国語の具体的項目は付録に示されている。

### (4) 親子関係

高木・藤田(1988)が作成した〈親からの影響や親への意識〉を調べるための親子関係測定項目(6尺度, 28項目)を用いた。なお, 高木・藤田は父親と母親を分けて親子関係を調べているが, 本研究では父親と母親を分けず, 一緒にして親子関係を調べた。

尺度I 「親からの精神的支持」尺度(7項目)

尺度II 「親からの人生観・考え方への影響」尺度(4項目)

尺度III 「親への感謝・愛情」尺度(6項目)

尺度IV 「親からの精神的独立性」尺度(4項目)

尺度V 「親からの心理的圧迫」尺度(3項目)

尺度VI 「生き方モデルとしての親」尺度(4項目)

評定は各項目ごとに「まったくあてはまらない」「あまりあてはまらない」「すこしあてはまる」「非常にあてはまる」の4段階評定で行われ, それぞれの回答に対して1~4点の項目得点が与えられた。各尺度得点は反転項目を反転させた上で, 各尺度を構成する項目の得点を合計し, それらを各項目数で割って算出した。日本語と中国語の具体的項目は高木・張(1992)に示されている。

## 4. 結果の整理

### (1) 調査対象の度数分布

調査対象の学年, 性, 年齢別の度数分布を調べた。

### (2) 自尊感情, 自己受容, 対人態度, 親子関係における性差, 発達差, 日中間の差

自尊感情, 自己受容, 対人態度, 親子関係の各尺度について, 平均および標準偏差を求め, 性差, 発達差, 日中間の差を調べるためにt検定を行った。

### (3) 自尊感情, 自己受容, 対人態度, 親子関係の間の関連

自尊感情, 自己受容, 対人態度, 親子関係の間の関連を調べるために, 各尺度間の相関係数を求め, 日中間の比較を行った。

## 結 果

## 1. 調査対象の学年、性、年齢別の度数分布

調査対象である日中青年の学年、性の内訳を Table 1 に示した。日本の高校生男女込み 230 名、大学生男女込み 384 名、中国の高校生男女込み 180 名、大学生男女込み 207 名であり、総数は 1,001 名である。日本の高校生は 1 年生だけであるが、中国の高校生は 1, 2 年生であり、学年にずれがある。大学生に関しては、日中共に 1 年生が多いが、特に日本の方が多く、2, 3 年生の割合は中国の方が多。4 年生は日本の大学生にわずかにいたただけである。

Table 1 日中高校生、大学生の学年別、性別の人数 (括弧内は%)

学年	性	日 本				中 国			
		高 校		大 学		高 校		大 学	
1	男	104 (100.0)	230 (100.0)	185 (76.1)	266 (69.3)	31 (34.4)	71 (39.4)	59 (53.2)	106 (51.2)
	女	126 (100.0)		81 (57.4)		40 (44.4)		47 (49.0)	
2	男			29 (11.9)	63 (16.4)	59 (65.6)	109 (60.6)	25 (22.5)	44 (21.3)
	女			34 (24.1)		50 (55.6)		19 (19.8)	
3	男			25 (10.3)	48 (12.5)			27 (24.3)	57 (27.5)
	女			23 (16.3)				30 (31.3)	
4	男			4 (1.6)	7 (1.8)				
	女			3 (2.1)					
合 計	男	104 (100.0)	230 (100.0)	243 (100.0)	384 (100.0)	90 (100.0)	180 (100.0)	111 (100.0)	207 (100.0)
	女	126 (100.0)		141 (100.0)		90 (100.0)		96 (100.0)	

年齢, 性の内訳を Table 2 に示した。日本の高校生は男女共に 15 歳の者が多いが, 中国の高校生では, 男子は 17~18 歳, 女子は 16~18 歳の者が多くなっている。これは, 日中高校生の学年のずれや調査時期のずれ (日本は学年の始め, 中国は学年の半ば) が主な原因であると考えられる。高校生の平均年齢は, 日本が 15.1 歳, 中国が 17.7 歳であり, 中国の高校生の方が 2.6 歳高い。

Table 2 日中高校生, 大学生の年齢別, 性別の人数 (括弧内は%)

年齢	性	日 本				中 国			
		高 校		大 学		高 校		大 学	
15	男	98 (94.2)	216 (93.9)			0 (0.0)	1 (0.6)		
	女	118 (93.7)				1 (1.1)			
16	男	5 (4.8)	13 (5.7)			0 (0.0)	21 (11.7)		
	女	8 (6.3)				21 (23.3)			
17	男	1 (1.0)	1 (0.4)			30 (33.3)	65 (36.1)		
	女	0 (0.0)				35 (38.9)			
18	男		84 (34.6)	133 (34.6)		40 (44.4)	65 (36.1)	3 (2.7)	4 (1.9)
	女		49 (34.8)			25 (27.8)		1 (1.0)	
19	男		97 (39.9)	145 (37.8)		10 (11.1)	17 (9.4)	5 (4.5)	12 (5.8)
	女		48 (34.0)			7 (7.8)		7 (7.3)	
20	男		41 (16.9)	71 (18.5)		3 (3.3)	3 (1.7)	25 (22.5)	52 (25.1)
	女		30 (21.3)			0 (0.0)		27 (28.1)	
21	男		11 (4.5)	23 (6.0)		5 (5.6)	6 (3.3)	29 (26.1)	58 (28.0)
	女		12 (8.5)			1 (1.1)		29 (30.2)	
22	男		6 (2.5)	7 (1.8)		1 (1.1)	1 (0.6)	34 (30.6)	51 (24.6)
	女		1 (0.7)			0 (0.0)		17 (17.7)	
23	男		2 (0.8)	2 (0.5)		1 (1.1)	1 (0.6)	11 (9.9)	16 (7.7)
	女		0 (0.0)			0 (0.0)		5 (5.2)	
24	男		1 (0.4)	1 (0.3)				3 (2.7)	4 (1.9)
	女		0 (0.0)			1 (1.0)			
26	男		1 (0.4)	2 (0.5)					
	女		1 (0.7)						
27	男							0 (0.0)	1 (0.5)
	女						1 (1.0)		
30	男							0 (0.0)	1 (0.5)
	女						1 (1.0)		
無回答	男							1 (0.9)	8 (3.9)
	女							7 (7.3)	
平均年齢	男	15.1	15.1	19.1	19.1	18.1	17.7	21.2	21.1
	女	15.1		19.1		17.2		21.0	
合計	男	104 (100.0)	230 (100.0)	243 (100.0)	384 (100.0)	90 (100.0)	180 (100.0)	111 (100.0)	207 (100.0)
	女	126 (100.0)		141 (100.0)		90 (100.0)		96 (100.0)	

大学生の年齢に関しては、日本の場合は男女共に18~20歳が多く、中国の場合は男女共に20~22歳が多くなっている。中国の大学生の年齢が高いのは、各学年の人数の割合のずれや調査時期のずれなどが考えられる。中国の大学生の平均年齢は21.1歳であり、日本の大学生の平均年齢よりも2歳高くなっている。

## 2. 自尊感情, 自己受容, 対人態度, 親子関係の性差, 発達差, 日中間差

日本の高校, 大学生と中国の高校, 大学生の自尊感情, 自己受容, 対人態度, 親子関係各尺度の性差, 発達差, 日中間差をTable 3に示した。以下, 順にみていく。

### (1) 自尊感情の性差, 発達差, 日中間差

まず性差についてみると、日本の高校, 大学生共に男子の方が女子よりも高い自尊感情を示している。中国の高校, 大学生においてはいずれも性差はみられない。

次に、発達差に関しては、日本の場合には男女共に高校生よりも大学生の方が高い自尊感情を示しているが、中国の女子では逆に大学生になると高校生よりも自尊感情が低くなっている。中国の男子では有意な発達差はみられなかった。

日中間差をみると、高校, 大学生の男女共に中国の方が日本よりも高い自尊感情を示している。

### (2) 自己受容の性差, 発達差, 日中間差

まず性差についてみると、日本の高校, 大学生において「否定的な自己認知に対する自己拒否」が男子よりも女子において高くなっている。これ以外では、有意な性差はみられない。

次に、発達差をみると、中国の女子の「肯定的な自己認知に対する自己受容」と「否定的な自己認知に対する自己受容」の2つにおいて、大学生の自己受容度が高校生よりも低くなっているのが特徴的である。また、日本の男子の「否定的な自己認知に対する自己受容」は高校生よりも大学生の方が高くなっている。

日中間差をみると、ほとんどの下位尺度において、中国の高校, 大学生の自己受容度は日本の高校, 大学生の自己受容度よりも高く、また、自己拒否度は低くなっている。

### (3) 対人態度の性差, 発達差, 日中間差

まず性差についてみると、日本の高校生では、女子の方が男子よりも「信頼・愛情」や「同調・依存」といった対人態度が高く、「孤独」を求める傾向は低い。日本の大学生では、「対立」や「孤独」を求める傾向は女子の方が男子よりも低い。中国の高校生には有意な性差はみられなかった。中国の大学生では、「信頼・愛情」の傾向は男子の方が女子よりも高いが、「孤独」の傾向は男子よりも女子の方が高い。

次に、発達差をみると、日本の男子では、大学生の方が高校生よりも「信頼・愛情」や「同調・依存」の傾向が高い。日本の女子では、大学生の方が高校生よりも「対立」の傾向が低い。中国の男子には有意な発達差はみられなかった。中国の女子では、「孤独」の傾向が高校生よりも大学生において高くなっている。

日中間差をみると、「信頼・愛情」に関しては、高校, 大学生の男女共に中国の方が日本よりも高い。「対立」に関しては、男子では日中間に差がみられないが、女子では差がみられ、高校生では日本の女子の方が中国の女子よりも「対立」の傾向が高いのに対して、

Table 3 日中高校生、大学生の自尊感情尺度、自己受容尺度、対人態度尺度、親子関係尺度得点

	日本				中国				性差				発達差				日中同差			
	高校		大学		高校		大学		高校		大学		高校		大学		高校		大学	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
人数	97~103	119~125	239~243	139~141	77~90	81~90	95~111	80~96	高校	大学	高校	大学	高校	大学	高校	大学	高校	大学	高校	大学
M	2.51	2.38	2.69	2.53	3.07	3.13	3.02	3.02	3.07	3.13	3.02	3.02	3.07	3.13	3.02	3.02	3.07	3.13	3.02	3.02
SD	0.47	0.43	0.44	0.48	0.96	0.96	0.90	0.96	0.96	0.96	0.90	0.96	0.96	0.96	0.90	0.96	0.96	0.96	0.96	0.96
M	3.66	3.68	3.71	3.73	4.15	4.13	4.04	3.87	4.15	4.13	4.04	4.04	4.15	4.13	4.04	4.04	4.15	4.13	4.04	4.04
SD	0.93	0.87	0.91	0.81	0.69	0.74	0.78	0.74	0.69	0.74	0.78	0.78	0.69	0.74	0.78	0.78	0.69	0.74	0.78	0.78
M	2.88	2.84	3.19	3.07	3.97	4.03	3.72	3.67	3.97	4.03	3.72	3.67	3.97	4.03	3.72	3.67	3.97	4.03	3.72	3.67
SD	0.98	0.92	1.01	1.04	0.78	0.70	0.89	0.87	0.78	0.70	0.89	0.87	0.78	0.70	0.89	0.87	0.78	0.70	0.89	0.87
M	2.11	2.05	2.01	2.00	1.81	1.65	1.86	1.72	1.81	1.65	1.86	1.72	1.81	1.65	1.86	1.72	1.81	1.65	1.86	1.72
SD	0.97	0.99	0.90	0.96	0.74	0.62	0.81	0.63	0.74	0.62	0.81	0.63	0.74	0.62	0.81	0.63	0.74	0.62	0.81	0.63
M	3.13	3.44	3.05	3.44	2.20	2.21	2.14	2.18	2.20	2.21	2.14	2.18	2.20	2.21	2.14	2.18	2.20	2.21	2.14	2.18
SD	0.96	0.92	0.91	0.89	0.73	0.70	0.89	0.68	0.73	0.70	0.89	0.68	0.73	0.70	0.89	0.68	0.73	0.70	0.89	0.68
M	2.75	3.09	3.15	3.09	3.83	3.80	3.87	3.72	3.83	3.80	3.87	3.72	3.83	3.80	3.87	3.72	3.83	3.80	3.87	3.72
SD	0.67	0.62	0.66	0.63	0.49	0.53	0.47	0.48	0.49	0.53	0.47	0.48	0.49	0.53	0.47	0.48	0.49	0.53	0.47	0.48
M	2.54	2.67	2.57	2.30	2.50	2.38	2.48	2.46	2.50	2.38	2.48	2.46	2.50	2.38	2.48	2.46	2.50	2.38	2.48	2.46
SD	0.73	0.72	0.68	0.62	0.59	0.60	0.62	0.62	0.59	0.60	0.62	0.62	0.59	0.60	0.62	0.62	0.59	0.60	0.62	0.62
M	2.75	3.12	2.99	3.09	2.82	2.65	2.52	2.50	2.82	2.65	2.52	2.50	2.82	2.65	2.52	2.50	2.82	2.65	2.52	2.50
SD	0.67	0.66	0.77	0.73	0.80	0.64	0.64	0.59	0.80	0.64	0.64	0.59	0.80	0.64	0.64	0.59	0.80	0.64	0.64	0.59
M	2.46	2.75	2.80	3.00	2.89	2.84	2.85	2.93	2.89	2.84	2.85	2.93	2.89	2.84	2.85	2.93	2.89	2.84	2.85	2.93
SD	0.54	0.59	0.55	0.54	0.38	0.43	0.47	0.43	0.38	0.43	0.47	0.43	0.38	0.43	0.47	0.43	0.38	0.43	0.47	0.43
M	2.31	2.53	2.63	2.80	2.89	2.93	2.74	2.81	2.89	2.93	2.74	2.81	2.89	2.93	2.74	2.81	2.89	2.93	2.74	2.81
SD	0.56	0.60	0.67	0.54	0.53	0.54	0.54	0.54	0.53	0.54	0.54	0.54	0.53	0.54	0.54	0.54	0.53	0.54	0.54	0.54
M	2.90	3.28	3.30	3.54	3.52	3.54	3.44	3.57	3.52	3.54	3.44	3.57	3.52	3.54	3.44	3.57	3.52	3.54	3.44	3.57
SD	0.64	0.64	0.56	0.45	0.45	0.44	0.49	0.42	0.45	0.44	0.49	0.42	0.45	0.44	0.49	0.42	0.45	0.44	0.49	0.42
M	3.13	2.96	3.06	2.98	2.79	2.83	2.73	2.70	2.79	2.83	2.73	2.70	2.79	2.83	2.73	2.70	2.79	2.83	2.73	2.70
SD	0.60	0.60	0.55	0.56	0.47	0.47	0.48	0.43	0.47	0.47	0.48	0.43	0.47	0.47	0.48	0.43	0.47	0.47	0.48	0.43
M	2.01	2.21	2.00	2.08	1.65	1.57	1.73	1.56	1.65	1.57	1.73	1.56	1.65	1.57	1.73	1.56	1.65	1.57	1.73	1.56
SD	0.60	0.69	0.70	0.68	0.65	0.64	0.71	0.58	0.65	0.64	0.71	0.58	0.65	0.64	0.71	0.58	0.65	0.64	0.71	0.58
M	2.05	2.29	2.31	2.46	2.37	2.33	2.30	2.33	2.37	2.33	2.30	2.33	2.37	2.33	2.30	2.33	2.37	2.33	2.30	2.33
SD	0.64	0.76	0.74	0.72	0.57	0.65	0.58	0.59	0.57	0.65	0.58	0.59	0.57	0.65	0.58	0.59	0.57	0.65	0.58	0.59

(注) 自尊感情尺度と親子関係尺度の得点範囲は1~5点、自己受容尺度と対人態度尺度の得点範囲は1~5点。  
\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

大学生では逆に中国の女子の方が日本の女子よりも高くなっている。「同調・依存」に関しては、高校生男子を除いて日本の方が中国よりも高くなっている。「孤独」に関しては、大学生女子を除いて日本の方が中国よりも高くなっている。

#### (4) 親子関係の性差, 発達差, 日中間差

まず性差についてみると、日本の高校生では、「親からの精神的支持」「親からの人生観・考え方への影響」「親への感謝・愛情」「親からの心理的圧迫」「生き方モデルとしての親」に関しては女子の方が男子よりも得点が高く、「親からの精神的独立性」に関しては男子の方が女子よりも得点が高くなっている。日本の大学生では、「親からの精神的支持」「親からの人生観・考え方への影響」「親への感謝・愛情」に関して女子の方が男子よりも得点が高くなっている。中国の高校生には有意な性差がみられない。中国の大学生では、「親への感謝・愛情」は女子の方が男子よりも得点が高くなっている。

次に、発達差をみると、日本の男子では、「親からの精神的支持」「親からの人生観・考え方への影響」「親への感謝・愛情」「生き方モデルとしての親」に関しては、大学生の方が高校生よりも得点が高くなっている。日本の女子では、「親からの精神的支持」「親からの人生観・考え方への影響」「親への感謝・愛情」に関して大学生の方が高校生よりも得点が高くなっている。中国の男子では、「親からの人生観・考え方への影響」に関して高校生の方が大学生よりも得点が高くなっている。中国の女子では、「親からの精神的独立性」に関して高校生の方が大学生よりも得点が高くなっている。

日中間差をみると、「親からの精神的支持」に関しては、中国の高校生男子の方が日本の高校生男子よりも高い得点を示している。「親からの人生観・考え方への影響」に関しては、中国の高校生男女の方が日本の高校生男女よりも高い得点を示している。「親への感謝・愛情」に関しては、大学生女子を除いて中国の方が日本よりも高い得点を示している。「親からの精神的独立性」に関しては、高校生女子を除いて日本の方が中国よりも高い得点を示している。「親からの心理的圧迫」に関しては、すべてのグループで日本の方が中国よりも高い得点を示している。「生き方モデルとしての親」に関しては、中国の高校生男子の方が日本の高校生男子よりも高い得点を示している。

### 3. 自尊感情と自己受容, 対人態度, 親子関係との関連

自尊感情尺度と他の尺度との相関を Table 4 に示した。以下、順にみていく。

#### (1) 自尊感情と自己受容の関連

日中の高校、大学生男女共に自尊感情は自己受容と正の相関を示し、自己拒否とは負の相関を示している。しかし、相関の程度は、日本の高校、大学生男女の方が中国の高校、大学生男女よりも高い。

#### (2) 自尊感情と対人態度の関連

日中の高校、大学生男女共に自尊感情は「信頼・愛情」的対人態度と正の相関を示している。また、一部を除き、「同調・依存」的対人態度や「孤独」的対人態度とは負の相関を示している。「対立」的対人態度とは、日本の大学生女子と中国の大学生男子において負の相関がみられる。

#### (3) 自尊感情と親子関係の関連



Table 4 日中高校生, 大学生の自尊感情尺度と他の尺度との相関

		日 本				中 国			
		高 校		大 学		高 校		大 学	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
		人数	92~97	114~119	236~239	138~139	77~89	81~90	94~110
自 己 受 容	I 肯定的な自己認知 に対する自己受容	*** 0.58	*** 0.53	*** 0.40	*** 0.47		*** 0.40		* 0.21
	II 否定的な自己認知 に対する自己受容	*** 0.62	*** 0.46	*** 0.58	*** 0.70	*** 0.39	*** 0.40	*** 0.38	*** 0.53
	III 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	*** -0.61	*** -0.60	*** -0.51	*** -0.61	*** -0.37	*** -0.47	*** -0.33	*** -0.37
	IV 否定的な自己認知 に対する自己拒否	*** -0.46	*** -0.53	*** -0.46	*** -0.53	*** -0.44	*** -0.48	*** -0.46	*** -0.40
対 人 態 度	I 信頼・愛情	*** 0.49	** 0.26	*** 0.46	*** 0.34	* 0.25	*** 0.37	*** 0.38	*** 0.41
	II 対立	-0.12	-0.01	0.01	-0.21	-0.01	0.12	*** -0.32	-0.08
	III 同調・依存	-0.17	** -0.26	*** -0.30	*** -0.32	* -0.26	-0.15	* -0.21	*** -0.33
	IV 孤独	* -0.25	-0.17	*** -0.28	*** -0.48	*** -0.34	-0.19	*** -0.32	* -0.21
親 子 関 係	I 親からの精神的支持	* 0.25	-0.03	0.03	** 0.23	-0.05	0.03	0.13	* 0.26
	II 親からの人生観・考え方への影響	** 0.28	0.10	0.12	* 0.18	0.08	-0.02	0.16	** 0.28
	III 親への感謝・愛情	0.19	0.04	* 0.15	*** 0.28	0.13	0.14	*** 0.31	*** 0.37
	IV 親からの精神的独立性	0.05	0.09	0.11	0.15	0.02	** 0.28	0.15	0.18
	V 親からの心理的圧迫	** -0.26	-0.18	*** -0.35	*** -0.46	** -0.31	** -0.29	*** -0.39	** -0.31
	VI 生き方モデルとしての親	0.06	0.05	* 0.13	** 0.24	-0.10	0.10	* 0.19	0.14

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

親子関係下位尺度の中で自尊感情との関連が最もみられるのは「親からの心理的圧迫」であり、日本の高校生女子を除いて負の相関を示している。「親への感謝・愛情」は、日中の大学生男女において自尊感情と正の相関を示している。「親からの精神的独立性」は、中国の高校生女子において正の相関がみられるだけであり、自尊感情との関連は最も弱い。

#### 4. 自己受容, 対人態度, 親子関係の間の関連

自己受容, 対人態度, 親子関係の各尺度間の相関を Table 5 ~ Table 8 に示した。以下, 順にみていく。

##### (1) 自己受容と対人態度の関連

自己受容は「信頼・愛情」的対人態度と正の相関を持つ傾向がみられるが, その傾向は中国の高校, 大学生男女よりも日本の高校, 大学生男女により強くみられる。一方, 自己拒否は「孤独」的対人態度と正の相関を持つ傾向がみられる。また, 「否定的な自己認知に対する自己拒否」はすべてのグループにおいて, 「同調・依存」的対人態度と正の相関を示している。

##### (2) 自己受容と親子関係の関連

日本の高校, 大学生男女では, 自己受容は「親からの精神的支持」「親からの人生観・考え方への影響」「親への感謝・愛情」と正の相関を示し, 自己拒否は負の相関を示しているが, 中国の高校, 大学生男女ではあまりそのような傾向はみられない。また, 「否定的な自己認知に対する自己受容」は「親からの心理的圧迫」と負の相関を示し, 「肯定的な自己認知に対する自己拒否」と「否定的な自己認知に対する自己拒否」とは「親からの心理的圧迫」と正の相関を示す傾向がみられる。

##### (3) 対人態度と親子関係の関連

「信頼・愛情」的対人態度は「親からの精神的支持」「親からの人生観・考え方への影響」「親への感謝・愛情」と正の相関を示す傾向があり, 「同調・依存」的対人態度は「親からの心理的圧迫」と正の相関を示す傾向がある。また, 女子においては「孤独」的対人態度は「親からの心理的圧迫」と正の相関を示し, 「生き方モデルとしての親」と負の相関を示す。

## 考 察

以上の結果にもとづいて, 日本の高校, 大学生と中国の高校, 大学生の自尊感情, 自己受容, 対人態度, 親子関係について考察していく。

まず自尊感情については, 中国の高校生, 大学生共に日本の青年よりも高い自尊感情を持っていた。これは高木・張 (1989, 1990 a) の結果とも一致し, 中国の青年の自立心の高さがその背景にうかがわれる。日本の青年には性差と発達差がみられ, 男子の方が女子よりも, 大学生の方が高校生よりも自尊感情が高かった。このような差は, 女子の発達差を除いて, 中国の青年にはほとんどみられなかった。日本の青年や社会の特徴が現れていると言えよう。中国の大学生女子の自尊感情が高校生女子よりも低かったのは, 中国では大学に入学してから卒業するまで全員が大学構内の寮に住むため, 特に1年生の女子にはホームシックになる者が多いからであろうと考えられる。入学したばかりの頃にはときど

Table 5 日本の高校生の自己受容尺度、対人態度尺度、親子関係尺度間の相関

	自己受容				対人態度				親子関係					
	I 肯定的な自己認知に対する自己受容	II 否定的な自己認知に対する自己拒否	III 肯定的な自己認知に対する自己拒否	IV 否定的な自己認知に対する自己拒否	I 信頼・愛情	II 対立	III 同調・依存	IV 孤独	I 親からの精神的サポート	II 親からの人生観・考え方への影響	III 親への感謝・愛情	IV 親からの精神的独立性	V 親からの心理的圧迫	VI 生き方モデルとしての親
自己受容														
I 肯定的な自己認知に対する自己受容	0.58	0.56	0.56	0.56	0.40	0.01	-0.05	0.33	0.30	0.33	0.01	-0.16	0.01	0.01
II 否定的な自己認知に対する自己拒否	0.59	-0.48	-0.26	-0.26	0.43	0.01	-0.09	0.35	0.35	0.41	0.12	-0.36	0.25	0.25
III 肯定的な自己認知に対する自己拒否	-0.56	0.56	0.29	0.29	0.28	0.25	0.11	0.33	0.36	0.30	0.02	0.29	-0.11	-0.11
IV 否定的な自己認知に対する自己拒否	-0.05	0.47	0.47	0.47	-0.15	0.08	0.42	0.31	-0.05	0.09	-0.09	0.35	0.03	0.03
対人態度														
I 信頼・愛情	0.40	0.30	0.30	0.30	0.22	0.22	0.12	-0.10	0.26	0.29	0.37	-0.05	-0.03	0.11
II 対立	0.12	-0.02	0.17	0.22	0.18	0.09	0.09	0.17	0.20	-0.07	0.24	0.21	0.21	-0.10
III 同調・依存	0.09	-0.16	0.12	0.41	-0.06	0.20	0.09	0.09	0.08	0.06	0.12	-0.25	0.31	0.05
IV 孤独	-0.17	0.28	0.43	0.29	-0.14	0.29	0.07	0.23	-0.05	-0.11	0.15	0.15	0.15	-0.05
親子関係														
I 親からの精神的サポート	0.26	0.34	0.21	0.16	0.22	-0.08	0.07	0.23	0.77	0.68	0.74	-0.31	-0.09	0.65
II 親からの人生観・考え方への影響	0.21	0.35	0.17	0.04	0.27	-0.08	0.07	0.23	0.77	0.64	0.64	-0.22	-0.13	0.68
III 親への感謝・愛情	0.41	0.44	0.32	0.09	0.33	-0.08	0.16	-0.32	0.74	0.68	0.25	-0.25	-0.25	0.63
IV 親からの精神的独立性	0.16	0.00	-0.05	-0.01	0.05	0.31	0.22	0.09	0.40	0.30	0.19	-0.04	-0.30	0.30
V 親からの心理的圧迫	-0.04	-0.14	0.24	0.40	0.27	0.18	0.32	0.18	0.00	-0.07	0.01	0.01	-0.20	-0.20
VI 生き方モデルとしての親	0.04	0.34	-0.20	-0.07	0.17	-0.18	-0.03	-0.22	0.60	0.67	-0.40	-0.40	-0.28	-0.28

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

(注) 右上は男子(94~102名), 左下は女子(115~125名)。

Table 6 日本の大学生の自己受容尺度, 対人態度尺度, 親子関係尺度間の相関

	自己受容				対人態度				親子関係					
	I 肯定的な自己認知 に対する自己受容	II 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	III 否定的な自己認知 に対する自己拒否	IV 否定的な自己認知 に対する自己受容	I 信頼・愛情	II 対立	III 同調・依存	IV 孤独	I 親からの精神的 支持	II 親からの人生観・ 考え方への影響	III 親への感謝・愛情	IV 親からの 精神的独立性	V 親からの 心理的圧迫	VI 生き方モデル としての親
自己受容	0.41	0.58	0.03	0.27	0.27	-0.08	0.09	-0.11	0.17	0.15	0.29	-0.04	-0.10	0.20
I 肯定的な自己認知 に対する自己受容	0.42	0.35	0.37	0.30	0.03	-0.18	0.18	-0.10	0.13	0.19	0.23	0.15	-0.24	0.16
II 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	-0.47	0.47	0.27	-0.32	0.12	0.05	0.26	0.02	0.20	-0.26	-0.28	0.02	0.25	-0.22
III 否定的な自己認知 に対する自己拒否	-0.02	0.39	0.18	0.00	0.45	0.26	0.06	0.11	-0.01	0.06	0.17	0.33	0.03	0.03
IV 否定的な自己認知 に対する自己受容	0.41	0.23	-0.04	-0.04	0.18	-0.04	0.28	0.24	0.27	0.24	0.00	-0.11	0.21	0.21
対人態度	-0.15	0.11	0.03	0.19	-0.10	0.12	0.12	-0.05	0.04	-0.08	0.04	0.02	0.02	-0.07
I 信頼・愛情	0.01	0.26	0.16	-0.04	0.10	-0.01	-0.01	0.16	0.07	0.00	0.33	0.29	0.06	0.06
II 対立	-0.31	0.29	0.32	-0.40	0.30	0.15	0.15	-0.16	-0.11	-0.17	-0.03	0.24	-0.22	-0.22
III 同調・依存	0.31	0.29	0.06	0.11	-0.07	0.18	0.18	0.06	0.74	0.62	0.24	-0.01	0.59	0.59
IV 孤独	0.30	0.32	0.09	0.19	-0.13	0.16	-0.03	0.09	0.77	0.56	0.15	0.04	-0.07	0.60
親子関係	0.29	0.35	-0.07	0.33	-0.16	0.00	0.24	0.48	0.49	0.56	0.04	-0.26	0.54	0.54
I 親からの精神的 支持	0.03	0.10	-0.07	0.06	0.11	-0.38	-0.03	-0.50	0.41	-0.08	0.04	-0.28	-0.23	0.23
II 親からの人生観・ 考え方への影響	-0.22	0.32	0.40	-0.31	0.27	0.24	0.45	-0.05	-0.12	-0.44	0.21	0.18	0.18	0.18
III 親への感謝・ 愛情	0.32	0.25	-0.23	0.27	-0.16	0.15	-0.18	0.67	0.64	0.59	-0.29	-0.39	-0.39	-0.39
IV 親からの精神的 独立性	0.03	0.10	-0.07	0.06	0.11	-0.38	-0.03	-0.50	0.41	-0.08	0.04	-0.28	-0.23	0.23
V 親からの心理的 圧迫	-0.22	0.32	0.40	-0.31	0.27	0.24	0.45	-0.05	-0.12	-0.44	0.21	0.18	0.18	0.18
VI 生き方モデル としての親	0.32	0.25	-0.23	0.27	-0.16	0.15	-0.18	0.67	0.64	0.59	-0.29	-0.39	-0.39	-0.39

(注) 右上は男子(236~243名), 左下は女子(139~141名)。 \* p<.05, \*\* p<.01, \*\*\*p<.001

Table 7 中国の高校生の自己受容尺度、対人態度尺度、親子関係尺度間の相関

	自己受容				対人態度				親子関係						
	I 肯定的な自己認知 に対する自己受容	I 否定的な自己認知 に対する自己受容	II 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	IV 否定的な自己認知 に対する自己拒否	I 信頼・愛情	I 対立	II 同調・依存	IV 孤独	I 親からの精神的 支持	I 親からの人生観・ 考え方への影響	II 親への感謝・愛情	III 親からの 精神的独立性	IV 親からの 精神的独立性	V 親からの 心理的圧迫	V 生き方モデル としての親
I 肯定的な自己認知 に対する自己受容		0.30	**	*	**	0.31	*	0.16	0.12	0.13	0.13	0.10	0.10	-0.01	-0.11
II 否定的な自己認知 に対する自己受容	0.41		**	**	0.06	*	-0.01	0.00	0.00	0.14	0.20	-0.01	-0.33	0.03	
III 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	-0.42	-0.19		**	-0.25	0.13	0.06	0.14	0.02	0.00	-0.08	-0.13	0.21	0.16	
IV 否定的な自己認知 に対する自己拒否	-0.04	-0.12	0.29		-0.19	0.07	0.33	0.29	0.06	-0.09	-0.04	-0.14	0.32	-0.07	
I 信頼・愛情	0.19	0.27	-0.12	-0.11		0.10	-0.05	-0.16	0.40	0.38	0.38	0.25	0.26	0.14	
II 対立	0.25	0.12	-0.01	-0.07	-0.06		0.31	0.41	0.26	0.21	0.11	0.00	0.08	-0.04	
III 同調・依存	0.16	-0.10	0.10	0.45	0.15	0.16		0.36	0.17	0.05	-0.07	-0.10	0.23	-0.04	
IV 孤独	-0.02	-0.15	0.11	0.30	-0.15	*	**		0.20	0.10	0.03	-0.18	0.14	0.13	
I 親からの精神的 支持	0.01	0.05	-0.06	0.11	0.32	0.06	0.09	0.01		0.60	**	-0.10	-0.07	0.38	
II 親からの人生観・ 考え方への影響	-0.03	0.02	-0.08	0.10	0.20	-0.01	0.08	-0.17	0.61		0.45	-0.15	-0.39	0.36	
III 親への感謝・愛情	0.07	0.20	-0.19	-0.09	0.35	-0.10	0.06	*	0.52	0.48		-0.02	-0.57	0.26	
IV 親からの精神的 独立性	0.21	0.19	-0.03	-0.11	0.12	0.17	-0.03	0.13	-0.02	0.04	-0.15		0.03	-0.28	
V 親からの心理的 圧迫	-0.26	-0.32	0.39	0.25	-0.22	-0.07	0.01	0.32	**	-0.33	0.49	0.00		-0.20	
VI 生き方モデル としての親	0.09	0.20	-0.22	-0.12	0.31	-0.02	0.03	-0.35	0.34	0.43	0.41	-0.22	*	-0.24	

(注) 右上は男子(77~90名)、左下は女子(81~90名)。  
\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

Table 8 中国の大学生の自己受容尺度, 対人態度尺度, 親子関係尺度間の相関

	自己受容				対人態度				親子関係					
	I 肯定的な自己認知 に対する自己受容	II 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	III 否定的な自己認知 に対する自己受容	IV 否定的な自己認知 に対する自己拒否	I 信頼・愛情	II 対立	III 同調・依存	IV 孤独	I 親からの精神的 支持	II 親からの人生観・ 考え方への影響	III 親への感謝・愛情	IV 親からの 精神的独立性	V 親からの 心理的圧迫	VI 生き方モデル としての親
I 肯定的な自己認知 に対する自己受容	0.10	-0.29	**	0.15	-0.04	-0.12	0.10	-0.02	0.17	0.04	0.07	-0.05	-0.05	0.13
II 肯定的な自己認知 に対する自己拒否	0.23	-0.27	**	-0.42	**	-0.18	-0.31	-0.13	*	0.25	***	0.16	-0.41	0.29
III 否定的な自己認知 に対する自己受容	0.10	-0.16	***	0.38	-0.05	0.01	*	0.22	-0.08	0.01	-0.10	-0.08	0.18	-0.08
IV 否定的な自己認知 に対する自己拒否	0.23	-0.22	***	0.34	*	0.17	***	0.45	-0.02	-0.06	-0.16	*	0.31	0.01
I 信頼・愛情	0.15	0.09	**	-0.05	-0.11	-0.09	**	0.08	0.07	0.25	**	0.28	-0.11	-0.07
II 対立	-0.09	0.29	**	-0.08	-0.08	0.18	*	-0.10	-0.18	***	0.07	0.32	0.36	-0.13
III 同調・依存	0.08	0.13	*	0.23	-0.19	-0.10	*	0.17	0.01	-0.07	*	-0.21	0.36	-0.11
IV 孤独	0.03	0.49	***	0.28	-0.12	0.38	***	0.09	0.07	-0.01	*	0.09	0.09	0.07
I 親からの精神的 支持	**	0.02	0.18	0.03	**	0.07	-0.03	***	0.70	***	*	-0.21	***	***
II 親からの人生観・ 考え方への影響	0.07	-0.02	**	0.03	**	-0.06	-0.16	0.69	***	0.48	*	-0.19	***	***
III 親への感謝・愛情	0.13	-0.17	-0.07	0.11	-0.11	-0.11	-0.09	0.56	0.47	0.05	0.05	-0.65	***	***
IV 親からの精神的 独立性	0.13	0.35	**	-0.29	0.07	0.17	-0.12	-0.32	**	-0.17		-0.17	-0.17	*
V 親からの心理的 圧迫	-0.02	-0.24	*	0.23	-0.10	0.13	0.21	-0.18	**	***	***	0.14	***	***
VI 生き方モデル としての親	0.09	-0.16	0.06	0.20	-0.26	0.13	-0.29	0.42	***	0.22	**	-0.31	*	*

(注) 右上は男子(95~111名), 左下は女子(79~96名)。  
\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

き涙を流す女子学生が珍しくない。

次に、自己受容についてみると、中国の高校生、大学生共に日本の青年よりも高い自己受容を示していたが、特に、否定的な自己認知に対する受容や拒否に関しては日中間差が大きかった。日本の青年には否定的に認知する自己の側面を受容できず拒否する傾向がみられたが、中国の青年にはそのような傾向がみられず、自己の否定的な側面も拒否せず受容する傾向がみられた。中国の青年には、自分の欠点や失敗を気にしたり恐れたりせず、前向きの建設的な姿勢で互いに助け合い向上していこうという傾向があるのに対して、日本の青年は自分が他人にどう思われているかが気になり、他人に迷惑をかけたり、他人から非難されないように気をつかい、実際に非難されると傷ついてしまう。前向きの建設的な姿勢ではなく、事勿れ主義の消極的な姿勢である。このような両者の精神性の違いが現れていると言えよう。

その他では、日本の青年においては、否定的な自己を拒否する傾向が男子よりも女子に強くみられたが、これは日本の青年女子の自尊感情の低さと関連する結果であろう。また、中国の青年女子においては、大学生の自己受容が高校生よりも低くなっていたが、これは、中国の大学生女子の自尊感情の低さとも関連し、親元から離れて寮生活をする心細さが影響しているものと考えられる。

対人態度の結果を下位尺度別にみると、「信頼・愛情」を大切にする態度は、中国の青年の方が日本の青年よりも強かった。一方、日本の高校生男子にはこの態度が欠けている傾向がみられた。未熟な対人関係が想像される。

「対立」的な態度は、日中共に低かったが、日本の大学生女子では特に低くなっていた。日本の高校生女子と比較しても、中国の大学生女子と比較しても有意に低く、控えめな態度が推測される。

「同調・依存」的な態度は、高校生男子を除き、日本の青年の方が中国の青年よりも強かった。ここでも中国の青年の自立性の高さがうかがわれる。日本の青年の中では、高校生男子の「同調・依存」傾向が少ないことが特徴であるが、「信頼・愛情」の態度の低さとも相俟って、友人関係の貧しさがうかがわれる。

「孤独」を志向する態度は日中共に低かったが、中国の青年の場合、大学生女子を除き、そのような態度は特に低かった。中国の青年は自立心が強くても、「孤独」に陥らず、「信頼・愛情」を重んじ、人間関係を大切にしているのであろう。中国の大学生女子が、大学生男子や高校生女子に比べて「孤独」を志向する傾向が有意に強かったのは、上述の事柄が影響しているのであろう。日本の青年では、女子の方が男子よりも「孤独」を志向する態度が低かったが、これは女子の依存傾向の現れであろう。

親子関係の結果についても下位尺度別にみると、「親からの精神的支持」を受けた経験は、日中間あまり差はなかったが、日本の青年においては性差と発達差がみられ、女子は男子よりも、大学生は高校生よりも多くの精神的支持を経験していた。日本の青年は大学生になると、親子関係が良い方向に変化するようである。

「親からの人生観・考え方への影響」の程度は、大学生では日中間に差がなかったが、高校生では日中間に差があり、中国の高校生の方が多くの影響を受けていた。また、日本

の青年では、女子は男子よりも、大学生は高校生よりも多くの影響を受けていた。ここにも親子関係の変化がうかがわれる。

「親への感謝・愛情」の気持ちは、中国の青年の方が日本の青年よりも強かった。日本の青年では、女子は男子よりも、大学生は高校生よりも感謝・愛情の気持ちが強くなっていった。やはり、親子関係の良い方向への変化がうかがわれる。

「親からの精神的独立性」は、日本の青年の方が中国の青年よりも高かった。中国の青年は一般的に自立性が高いが、親との関係は大変重要なものであり、大切にしていることがうかがわれる。

「親からの心理的圧迫」を受けた経験は、日中共に少なかったが、特に中国の青年では非常に少なかった。中国の青年の親子関係の良好さが推測される。

「生き方モデルとしての親」の意味は、日中共にあまりなかった。特に、日本の高校生男子にはなかった。

最後に、尺度間の関連をみると、自尊感情は自己受容や「信頼・愛情」的対人態度、「親への感謝・愛情」と正の相関を示し、自己拒否や「同調・依存」的対人態度、「孤独」的対人態度、「親からの心理的圧迫」とは負の相関を示した。また、自己受容は「信頼・愛情」的対人態度と正の、自己拒否は「孤独」的対人態度と負の相関を示した。さらに、「否定的な自己認知に対する自己拒否」は「同調・依存」的対人態度や「親からの心理的圧迫」と正の相関を示し、「否定的な自己認知に対する自己受容」は「親からの心理的圧迫」と負の相関を示した。自尊感情や自己受容が高いと愛情に裏付けられた人間関係を発展させることができ、逆に、自尊感情や自己受容が低いと依存的になったり、孤立したりしてしまい、人間関係に問題が生じる恐れがでてくることも考えられる。

[謝辞] 本研究の実施にあたっては、福州師範専科学校陳曉荆講師、福建師範大学、福州第四中学、及び福州第十六中学の校長並びに教師の皆様、横浜国立大学非常勤講師外山嘉奈子氏、そして羽深陽一、市来康人、加藤健治、雨谷正夫の各先生に多大なご協力をいただきました。記して謝意を表します。

#### 引用文献

- 加藤隆勝・高木秀明 1980 青年期における対人態度の特質と発達傾向 教育心理, 28(6), 75-79.
- Rosenberg, M. 1965 Society and the adolescent self-image. Princeton University Press.
- 高木秀明・藤田仁美 1988 親子関係と青年の自己意識——自我同一性、自尊感情との関連——日本教育心理学会第30回総会発表論文集, 360-361.
- 高木秀明・徳永由紀 1989 自己受容に関する一研究——測定尺度作成の試み、及び自尊感情等との関連について——日本教育心理学会第31回総会発表論文集, 227.
- 高木秀明・張 日昇 1989 青年期の心理的特徴に関する日中比較研究(1)——自尊感情、独立意識、及び対人態度について——日本心理学会第53回大会発表論文集, 75.
- 高木秀明・張 日昇 1990 a 日中青年の自己意識の発達に関する比較研究 横浜国立大学教育紀要, 30, 21-43.



- 高木秀明・張 日昇 1990b 日中青年の親子関係に関する比較研究——その発達, および自己意識との関連—— 対人行動学研究, 9, 17-28.
- 高木秀明・張 日昇 1992 親子関係, 友人関係と自我同一性の関連に関する日中青年の比較研究 横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 8, 167-188.
- 高木秀明・張 日昇 1993 日中大学生の心理的不安に関する比較研究 横浜国立大学教育紀要, 33, 35-56.
- 張 日昇・高木秀明 1991 日中青年の友人関係に関する比較研究——その発達, および自己意識との関連—— 横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 7, 123-142.
- 張 日昇・高木秀明 1994 大学生の心理的適応に関する日中比較研究 家庭教育研究所紀要, 16, 63-74.

## 付 録

### 対人態度測定項目

#### <日本語>

次にいくつかの短文が書いてあります。それぞれの短文を読んで、あなた自身にあてはまる場所に一つ○をつけて下さい。

(回答は「全く自分にはあてはまらない」「あまり自分にはあてはまらない」「どちらともいえない」「大体自分にあてはまる」「全く自分にあてはまる」の五肢択一)

#### 尺度Ⅰ 「信頼・愛情」尺度 (5項目)

1. 私は人を指導する(リードする)力がある。
2. 私は年下の人から尊敬される。
3. 私は人の気持ちを思いやる方だ。
4. 私は人に対して暖かく世話することが好きだ。
5. 私は人から頼もしい人だと思われている。

#### 尺度Ⅱ 「対立」尺度 (5項目)

1. 私は人と争う(けんか, 口論)ことが多い。
2. 私は一般に反抗的である。
3. 私は人に対しても自分のわがままを通したい。
4. 私は人生は戦いの場所であり, 攻撃することをためらってはいけないと思う。
5. 私は人からこわい人だと思われている。

#### 尺度Ⅲ 「同調・依存」尺度 (5項目)

1. 私は人生はなんとなく心細く, ひとりでは不安だと思う。
2. 私は人の言いなりになりやすい。
3. 私は人前に出ると相手に同調しやすい。
4. 私は人から甘えっ子だと思われている。
5. 私は人がいないと寂しいので, いつも人と一緒にいたい。

#### 尺度Ⅳ 「孤独」尺度 (5項目)

1. 私は人から孤独な人だと思われている。

2. 私は人と会いたくないことが多い。
3. 私には社交性がない。
4. 私は人生は結局、孤独（ひとりぼっち）なのだと思う。
5. 私はひとりでコツコツ仕事をすることを好む性格である。

<中国語>

请认真阅读下列短句，根据你自身的判断，从五项不同的判断层次中，选择与你相适合的一项，并将这一项的标号用“○”圈起来。

（回答是从“完全不是这样”、“大体不是这样”、“模棱两可”、“大体是这样”、“完全是这样”的五项中进行选择）

尺度Ⅰ “信赖·爱情”尺度(5项目)

1. 我有领导他人的才干和能力。
2. 我受到比自己年纪轻的人的尊敬。
3. 我能体谅别人的心情。
4. 我喜欢给他人热情的帮助。
5. 我被认为是一个靠得住的人。

尺度Ⅱ “对立”尺度(5项目)

1. 我经常和他人辩论、争执。
2. 我一般是和他人相抵触的。
3. 我对别人也总想我行我素。
4. 我认为人生就象战场，应不失时机地采取攻击行动。
5. 我被认为是一个令人生畏的人。

尺度Ⅲ “同调·依存”尺度(5项目)

1. 我总觉得人生无底，一个人十分不安。
2. 我很容易唯命是从，人云亦云。
3. 在和别人相处时，我易与对方协调一致。
4. 我被认为是一个娇生惯养的人。
5. 只要一没有人，我就会感到寂寞，我希望始终和他人在一起。

尺度Ⅳ “孤独”尺度(5项目)

1. 我被认为是一个孤独的人。
2. 我经常不想见他人。
3. 我没有社交能力。
4. 我认为，人生归根到底是孤独。
5. 我是一个喜欢独自锲而不舍地工作的人。